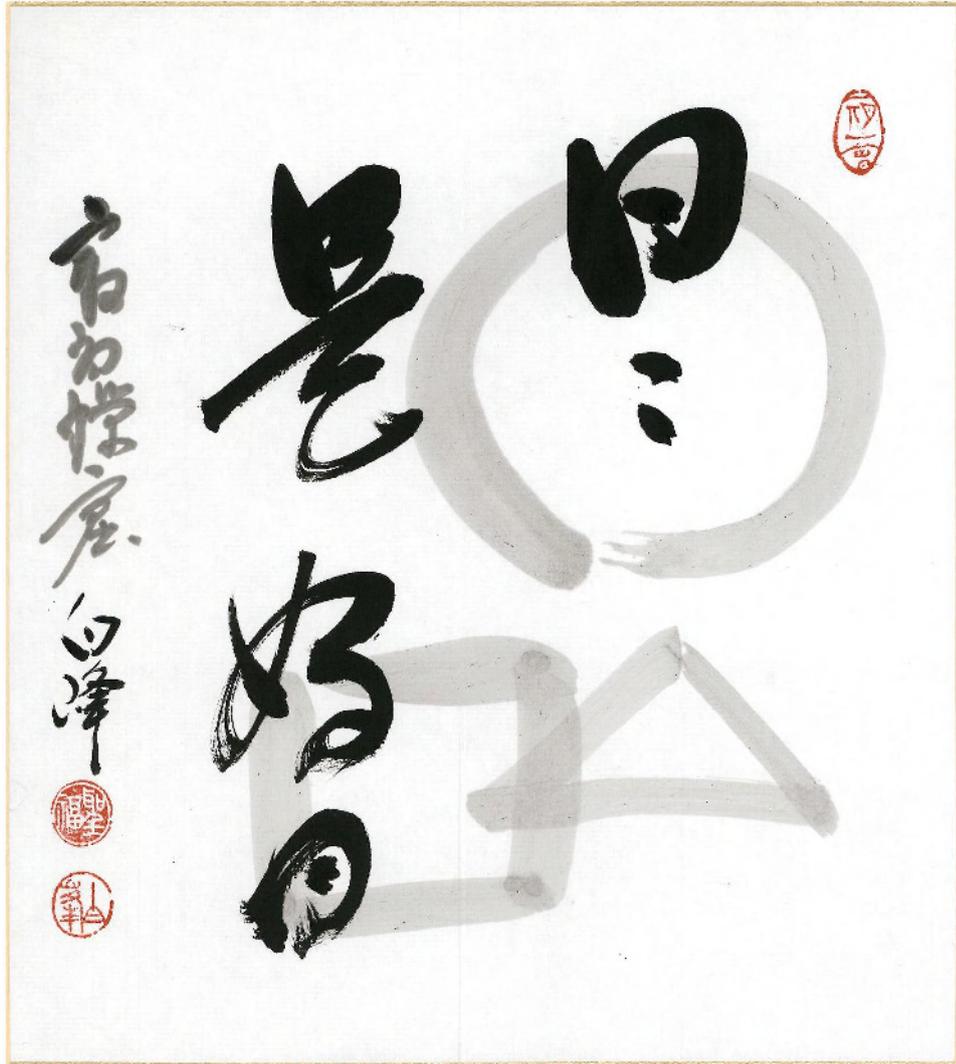


圓福寺報



「日々是好日」最初禅窟 白峰

圓福寺報 第六十一号
 平成二十四年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九二八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

聖福寺専門道場 芙蓉庵 細川白峰老大師御染筆

目次

法話「大圓鏡智 ——自己を見つめる」	2
竜波禅士、圓福寺入寺	7
第十回四国あるき遍路のご案内	7
二順目第九回 「四国歩き遍路の旅」	8
六月の土曜会 「国境の島『対馬』への旅	14
第三十四回花園会ゴルフ大会	16
連載予告「続・寺から半里」	16
平成二十三年度花園会会計報告	16
投稿 「末期の露」 こてはし台 荒井 恒夫さん	17
お寺と和尚の日録抄	18
穴川花園幼稚園 園だよりから 「あたたかな活動」	19
地藏盆のご案内	20



とができるかどうかの微妙な天気でした。それでも時折雲が薄くなるころがあった、わずかな希望を持って屋上で待っていました。

■金環日食
五月二十一日、幼稚園の子どもたちと「金環日食」を観察しました。いつもは八時半過ぎに登園なのですが、その日は朝七時十五分に登園して、屋上から観察をすることにしました。子どもたちは何日も前から観測用のサングラスの使い方を練習して、いざ当日です。あいにくの曇り空で金環日食を見るこ

「大圓鏡智」 ——自己を見つめる

した。すると、雲が薄くなった部分が明るくなり日食が始まった太陽が少しだけ顔をのぞかせました。「見えた一つ。」という声に、子どもたちは一生懸命観測用サングラスを、練習した通りに顔を下から上に向けて金環日食を探します。私も子どもたちと一緒にサングラス越しに金環日食を見ようと思いましたが、全然見えません。金環日食を裸眼で見ないでくださいと、ニュースでも言っていましたので、裸眼で見たらいけないと思いつつ、サングラスを外して見ると、薄雲をすかして金環日食を見ることができました。もう一度サングラスをか

けて見てみると、雲が薄くなるとサングラス越しでも金環日食を見ることができました。相変わらず子どもたちはサングラスをかけたまま、見えな～い、見えな～いと言っています。子どもたちを見てみると、ちよっと見ただけですぐに「見えな～い。」雲が切れたときに、先生が一生懸命、今見えるよと言っても、「見えな～い。」その後、雲がかなり薄くなった時に、サングラス越しに、全員が金環日食を観察することができたようでした。

■目を凝らす

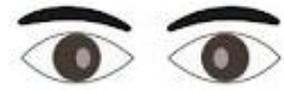
金環日食の観察をした子どもたちの姿を見て、今の子どもたちは、「目を凝らす」ということを知らないのだなと思えました。

観測用サングラスで金環日食を見るとき、ちよっと見ただけですぐに「見えな～い。」とい

う子どもばかりでした。そんな時は、目を凝らして、その暗さに目を慣らすと次第に見えてくるなんていう経験をした子がいかなかったのでしょうか。子どもたちの環境を考えてみると、夜暗かったら電気のスイッチを押せばいいでしょう、中にはセンサーがあつて人がいたら自動で電気がつくようになっている場所もあります。電気のない夜中でも、月明かりや雪明りなんていうのがあつて目を凝らせば次第に見えてくるなんて生活を知らないのです。ましてや、漆黒の暗闇の中を歩くなんてまずありません。コンビニは二十四時間、必要以上に明るく、震災後の節電の一時期を除けば、夜通し煌々としています。夜道も街灯が道を照らしていますし、身の回りに真っ暗闇なんてないわけです。眼を凝らす必要なく育っているのです。

■五眼

この見るとい
う働きをする器
官が「眼」です
が、仏教では五
種類あります。
五眼（ごげん）とい
います。肉
眼・天眼・慧眼・法眼・仏眼の
五つです。



肉眼では、この世のものを
見る、生老病死の苦しみを
見る、とができる。天眼では、
天は、天・人・修羅・畜生・餓
鬼・地獄の六道の一番目で、そ
の天から見るということで、こ
の世だけでなく六道のすべてを
見ることができるといわれます。

慧眼は、智慧の眼です。『菩
提和讃』に「観世の慧眼あきら
かに、広く衆生に回向して」と
出てきますから、観音様の眼の
ことを慧眼といいます。では、
どんな眼かという、観世音と
いうように、姿・形・見た目だ
けでなく、音をも見るとい

とで、眼耳鼻舌身の五感を通し
て察することのできる眼が慧眼
でしょう。

法眼は、世の中で起こること、
おこっていること、真相を
見ることのできる眼だといわれ
ます。仏教の因果の教えに適っ
ているのかどうかから判断でき
る眼が、法眼です。

最後の仏眼は、肉眼・天眼・
慧眼・法眼の四つを兼ね備え
た、すべての真実を、本当の姿
を見ることができるとい
います。

私たちもこの五眼で見なければ
いけないのですが、なかなか
そうはいきません。

朝起きたらテレビをつけて映
像を見ます。今日はどんな
ニュースがあるかな、昨日のプ
ロ野球の結果
はどうだった
かな。新聞の
折り込み広告
を見て、どこ
のスーパーが





す。外にばかり目が向いて、私たちは肝心なものを見失いがちです。それは、

セールをやっているかな。どこ
のデパートが北海道物産展をし
ているかな。などなどたくさん
の情報を目から得ます。

町に出れば、たくさんの広告
が目から入ってきます。ランチ
が四百八十円かあ、安いなあと
か。夏になって「氷」の幟を見
てはうまそうだなあ、冷たくて
いいだろうなあとか。

町でたくさんの人に出会っ
て、きれいな人がいれば見と
れ、手に持っているバッグを見
てはあれはグッチの高いやつだ
とか、あれはルイヴィトンのニ
セモノのバッグだとか・・・。

とにかく目から入ってくる情
報によって振り回されて、これ
を「眼うつり」というわけです
が、振り回されてしまいがちで

一番身近で一番大切な自分、見
失ってはいけない自分です。

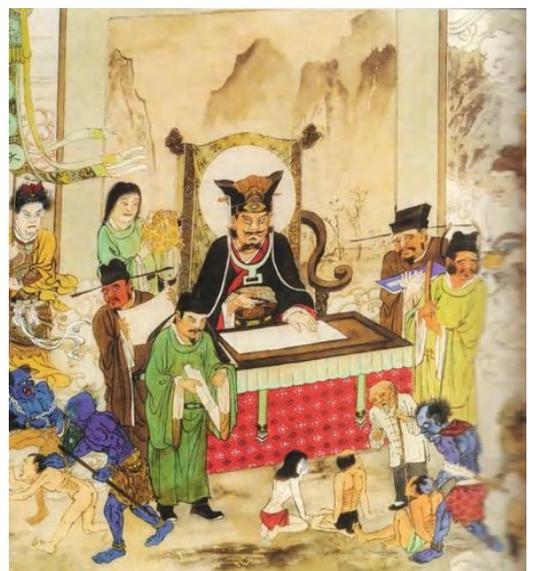
■大円鏡智

毎朝鏡に映る自分を見るで
しょう。女性の方だったらお化
粧をして、男の方はひげをそつ
て、私だつて一日一回ぐらいは
鏡を見ます、平均するとです
が・・・でも、これは肉眼で
見ているだけです。姿・形を見
ているだけで、五つあるという
眼を活用していないわけでは
す。その時に役立つ鏡がありま

す。「大円鏡智」という鏡です。

大きな丸い鏡のような働きを、
大円鏡智といえます。智は、働
きという意味です。

この大円鏡智は、仏さんの
持っているたくさんの働きの中
の一つです。鏡ですから、その
前に立てばありのままの姿を、
それも仏さんの五眼で見ると、
に映してくれるわけです。だか
ら、仏さんの前に坐るとき正し
い姿勢で坐らなないと気が引け



るし、子どもが行儀悪かつた
ら、ちゃんと正座しなさいと叱
るわけです。

■父の大円鏡智

私事ですが、私の父は、私が
生まれて百日の時に亡くなりま
した。というか、亡くなったの
だそうです。父は結核を患って
いました。

そんなわけで、私は父を知ら
ずに、父は写真の中の人として
育ちました。大学に入るとき
に、よく考えずに偏差値に見合
う大学に行けばいいぐらいにし
か思っておらず、のほほんと大

学生生活を六年もやってしまいました。いざ就職の時、周りの連中は教員採用試験を受けて、それぞれの方の教員になるという目標を持っていました。私は寺の後を継ぐわけでもなく、かといって教員というがらでもなく、といいながら今では幼稚園の園長なのですが、特にこれといった就活もせずという状態でした。

父親がいなかったとはいえ、おそらく母親が父の修行の時の話や住職をしてからの話、お寺の生活といったものを自然と身につけさせていたんだろうと思います。住職がおらず、兄も大学に行っていた時期には、ご法事の塔婆を隣の浄土宗のお寺に頼みに小学校低学年の私が塔婆を持って歩いて言った覚えがあります。そんなでしたから、どこかに、最後は僧堂、修行道場に行けばいいという、保険みたいなものを持ち合わせていたんだらうと思います。卒業の時

に、その保険を使いました。修行道場に行こうと思ったのです。

道場に入るときは作法を教えてもらい、いきなりの入門となりました。右も左も分からず、とにかく作務という野良仕事がたくさんある道場がいいというだけで平林寺に行きました。

それはそれは緊張の連続、作法はいろいろうるさいし、お経を覚えなければならぬし、坐禅もしなければならぬし、ちよつとでも失敗したり間違えたりすれば先輩のどなり声が飛んでくるのです。

そんな中、ふと思うことがありました。父のことです。写真



でしか見たことがなく、母の話でしか知らない父のことを思い出しました。

父は、材木商を営む両親が離婚し、その後、母親が四十才そこそこで亡くなり、残された父の兄弟たちはそれぞれいろんなところに預けられたり、養子に出されたのだそうです。たまたま私の父は、本を読むのが好きだったのか字が書けたのかお寺に小僧に出されたのでした。愛媛県の東予市という瀬戸内海に面した町です。その後、師匠がお寺を移られるのに伴い、大洲市そして川口市と移り大学を出してもらい、妙心寺の専門道場と大徳寺の専門道場で修行をしたそうです。

私も父と同じように道場に行くようになった。初めて父のことを思い出しました。父も同じように、先輩から怒鳴られ、坐禅で足が痛い思いをし、わらじを履いて托鉢をし、冬にはあかぎれの足を引きずって歩いただらう



し、氷のように冷たい水で雑巾がけもしたのだらうと、父のことを思いました。はじめて、お坊さんになってよかったと思いました。父と私とを重ねて見ることで、父は私にとっての大円鏡智となりました。苦しい時、つらい時、父という大円鏡智に自分を映してみて、多少がんばることができたと思います。

これが、実際の父が眼の前にいたら、おそらく反発したり口答えできたりしたわけですから、自分自身のことを見つめることはできなかつたと思います。

その点では、亡くなった人が仏さんになって、大円鏡智という働きを持ってくれることは、残された者に自らを見つめる機会を作ってくれるということ、非常にありがたいのです。

■大円鏡智のはたらき

大円鏡智という鏡は、鏡ですから、その前に立った時の自分しか映しません。前に映っていた自分を見ることはできず、あの時こうだったんじゃないかと昔を蒸し返すこともありません。たった今の自分のありようを、五眼で見つめるのに格好の道具がこの大円鏡智です。

その大円鏡智を持っているのは、みなさんお一人お一人の先祖の方々、仏さんたちです。先祖の居ない人は誰一人としていないわけですから、みなさんはいつでも大円鏡智という鏡を引きだすことができるわけです。

その大円鏡智の鏡に自分を映すということは、自分自身を五眼で見ることになります。

天眼では、今の自分は六道のどの心でいるかを見ることができ、いらいら怒ってばかりいなか、餓鬼や畜生のように貪っていないか、人に不親切だったり意地悪だったりして地獄のような出来事をおこしていないか。

慧眼で、観音様のように相手の気持ちになつて考え、行動できているかを見、法眼では因果の教えに背いていないかを見ることができ、そして、今の自分が正しいのか、今の自分がどう生きていけばいいのかを教えてくださいるのが大圓鏡智です。

鏡には持ち運びに便利なコンパクトというのがあるそうです、大圓鏡智も常に持ち歩いていただき、周りにばかり目を向けないで、自らを見つめることを忘れずに生きていきたいものです。

竜波禅士圓福寺入寺

かねてより、市原別院耕雲寺担当の副住職をお願いしていた田中竜波禅士が、八月より入寺いたします。

八月盆のお宅には、早速柵経からお伺いすることになります。が、どうぞよろしくお願い申し上げます。

左記、略歴をご紹介いたします。

長崎県対馬市、臨済宗南禅寺派西山寺住職田中節孝師の次男として生まれる。

高校卒業後、京都花園大学入学。大学三・四年時、石庭で有名な「龍安寺」にて徒弟生活をしながら大学に通う。

花園大学卒業後、京都大徳寺専門道場で五年間修行。七月いっばいで道場を出て、千葉圓福寺に入寺予定。

年齢は、二十七歳。独身。

参加者募集
約20名

第10回

2巡目

四国あるき遍路の旅

- ◆時間があれば行きたい方・・・土日を利用しての二泊三日の旅です。
- ◆まだ遍路に行く年でもないからという方・・・体力のあるうちですよ。
- ◆興味はあるんだけどという方・・・思い立ったが吉日といえます。
- ◆どんな人が一緒なのか不安な方・・・一緒に歩けば、皆、仲間になりますよ。
- ◆体力に自信のない方・・・マイペースで大丈夫。疲れたらタクシーも可。
- ◆わからないことがある方・・・どうぞお問い合わせください。



二巡目の第十回の参加者を募集いたします。今回は、愛媛県に入って三回目、伊予の難所二ヶ寺をお参りした後、一気に道後温泉石手寺に向けての下りとなります。札所は四十四番から五十一番まで、八か所お参りします。

【日程】 十一月十六日(金)
～ 十八日(日)

【旅程】 飛行機にて松山へ。電車にて内子、町営バスにて移動。畑峠遍路道を歩いて四十四番大寶寺参拝、宿坊泊。二日目、大寶寺から四十五番岩屋寺まで山中の遍路。岩屋寺参拝後路線バスにて移動。三坂峠から四十六番浄瑠璃寺まで下り、宿泊。三日目、五十一番石手寺まで遍路。道後温泉にて休憩後、松山空港から帰路。三日間の歩行距離は、約四十三kmを予定。

【参加費】 約五～六万円を予定

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。

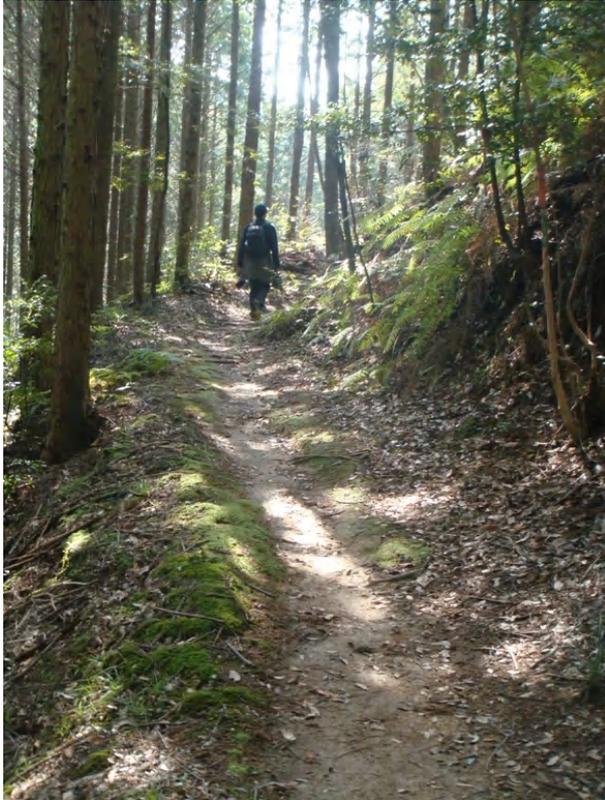


【右】龍光寺の案内板と並んで鳥居が鎮座している。正面に神社があり、参道両側に龍光寺本堂と大師堂がわかれて建っていて、廃仏毀釈の影響を見ることができる。



務田駅から歩いて三間川を渡る

〔右〕龍光寺から四十二番仏木寺（ぶつむくじ）への遍路道。この時期、私たち以外の歩き遍路はまだ歩いていないので、道も枯れ木や落葉が散乱しています。といっても、遍路道は誰かが掃除してくれているのでしょうか。お礼まじりは、ほうきや熊手を持って遍路道掃除をするのがふさわしいかも知れません。険しそうに見えますが、百メートルほどで舗装道路に出ます。



四十一番龍光寺大師堂でお参り



まずは、腹ごしらえ

羽田を朝七時二十五分に出発して、務田駅について歩きはじめたのが、十一時五十分。四時間半ほどの長旅から解放されて歩きはじめることの心地よさ。いよいよ遍路が始まると思ったのもつかの間、十分ほどで昼食予定の道の駅「三間」に到着。腹が減っては戦はできぬ、ということか。こんな所でランチバイキングがあるとは驚きでした。

四十一番龍光寺

龍光寺参道の入り口に立つと、長い石段の突き当たり瓦屋根が見えます。誰もが本堂だと間違えますが、正面突き当りは神社の社殿です。廃仏毀釈で、かつての本堂は神社の社殿にさせられたのでしょう。現在の龍光寺の本堂は石段の左、大師堂は石段の右に配されています。

七子峠間の急こう配の階段

影野駅にて。ようやく電車が来ました。



歯長峠へは、標高差300mほどの登りです。



通路の休憩所を過ぎるといきなり鎖場の登りとなりました。



【左】仏木寺（ぶつもくじ）のかやぶきの鐘楼。【下右】歯長峠（はながとうげ）の入口。いよいよここから登ります。【下左】歯長峠への遍路道。このように、歩き遍路用の道しるべが頼りとなります。



思い出の歯長峠

一巡目、四十二番仏木寺の門前に小さな店があるので、そこで昼飯を調達しようと思ったのに、お菓子ぐらいしか売っておらず、一巡目のその日の昼食は、歯長峠で分けあったお菓子でした。

今回、あの店は？と思ったから、いまだに門前で営業をしていました。品数も少なくエコノミックではないのに続けていられるのは、人件費も設備費も極度に削減したエコノミーな経営だからでしょうか。

歯長峠は相変わらず険しい峠越えで、途中には鎖場もあるほどです。そんな鎖場があったという記憶がないのは、昼飯を調達できなかったという不安ばかりだったからだと思います。

歯長峠からは一気の下りですが、高速道路のために遍路道が付け替えられ、全く様子が変わっていて戸惑いました。



【上】宿を出てすぐに、町内にある妙心寺派光教寺をお参りしました。本堂前でお経が終わったら住職が出てきて、裏庭を案内してくれた。

【下】卯之町は歴史的建造物が残っている。町並みと遍路が絵になる。開明学校、高野長英の隠れ家などもある。



卯之町の老舗「松屋旅館」に泊る。政財界の有名人が泊ったという旅館です。でも、宿泊代は、お遍路価格でした。

卯之町からひと山越えたところに、四十三番明石寺があります。その山中、雨降りでもあり、夕方のように暗い。途中に東屋もありますが、寒々しいことこの上なし。山を下ったところに山門があり、山門の下には売店と広大な駐車場。はは〜ん、バスの団体遍路はこっちから来るのか。トイレも駐車場にあり、歩き遍路はわざわざここまで行かなければならない。

雨の日の雲水の格好は、ポンチョ型の雨合羽を首からかぶる。まるで黒いテルテル坊主状態。足の脚絆は着用不可となり、ひざ下まで濡れる。網代笠はすぐれもので、まず雨が濡れることはない。



やっぱり、雨！

一泊目の宿は、宇和町の松屋旅館。歯長峠を下りたところの遍路宿は三部屋しかなく、大所帯の私たちはすげなく断られ、分不相応の老舗旅館に泊まることになったのです。

翌朝、老舗旅館の庭は雨で濡れていました。毎回、三日間の内、一日ぐらいは雨！と相場が決まっていますので、さして驚かなくなっています。宿の前に雨支度をして、出発です。

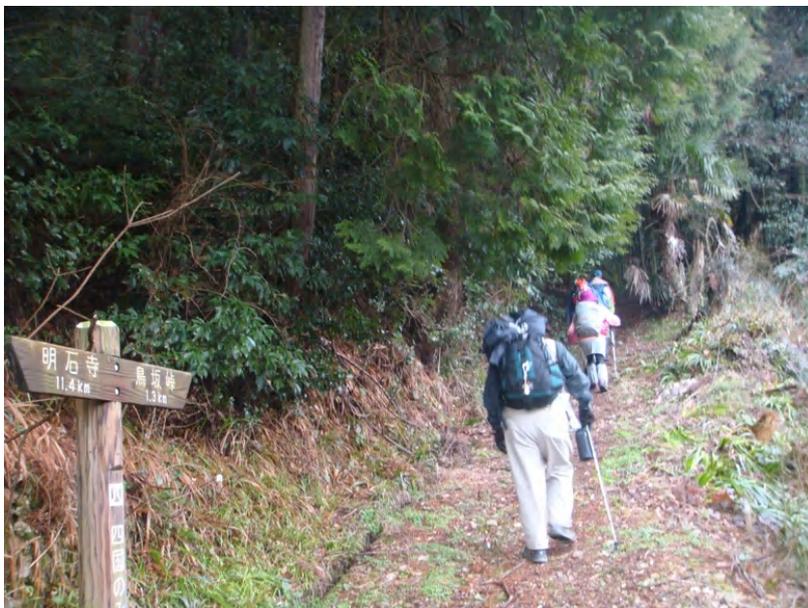
四十三番明石寺から古い遍路道をとっていったのに、今はだれも通らないから分からないと言われ、仕方なく宇和町に戻って、国道の旧道を鳥坂峠を目指すことにしました。

四国八十八か所を世界遺産に登録しようという活動があるのですが、古い遍路道がぎつぎつに消えていくようでは、到底世界遺産への登録は無理でしょう。古い遍路道こそ遺産なのですから・・・。



【右】雨は上がりましたが、また振りだすかも知れないので、脚絆はつけていません。
【左】雨の心配がなくなったので、休憩した所で脚絆をつけています。現代のサポーターみたいなもので、脚絆のあるなしで歩きやすさがぜんぜんちがいます。

明石寺を後にして、卯之町に戻る遍路道



いよいよ鳥坂峠へ登り始める。峠まで1.3kmと標識に書いてあります。



「信里庵」の縁側をお借りして、さあ昼飯

信里庵から鳥坂峠へ

とさか

明石寺から卯之町に戻ってか
ら鳥坂峠への分かれ道までは、
ほぼ平坦な道。地元の人々の生活
の息遣いを感じながらの遍路で
す。朝方の雨も上がり、気持ち
は楽なはずなのに、例年にな
い寒さと、この先の峠道を想像
すると口数も少なくなってしまう
のでした。

峠道にさしかかる手前の、「
信里庵」というお堂で昼食を
いただくことにしました。お昼
近かったこともありましたが、坂
道を登る前に少しでも荷物を減
らすことと、雨上がりで腰をお
ろして食べる場所を見つけられ
ない可能性もあるからです。そ
んな時、お堂はありがたいので
す。
標高差二百メートルの鳥坂峠
にたどりつくくと、案の定、鳥坂
峠には東屋もなく、まして峠だ
という標識もありませんでした。

【右】如法寺の山門。工事中で足場が渡されています。山門をくぐった正面が仏殿です。
 【左】参道を下っていく住職。かつて住職のお父さんが中学校に通った道だそうです。この参道を、毎日毎日上下り下りしたのでしょうか。



【上】橋の下の十夜ヶ橋の霊場。寝ている姿のお大師さんが何人か？
 【左下】十夜ヶ橋をあとにする。納経所で歩き廻路道を聞いたら、「最後は一緒になるからこのまままっすぐ。」というので真っすぐ歩きましたが、車がたくさん行き交う舗装道路で歩きにくいことこの上なし。納経所で教えてくれた人は、歩き廻路未経験者と想像できた。

如法寺と十夜ヶ橋

鳥坂峠を下り、札掛大師堂からは国道を歩くゆったりした下り坂。二泊目は大洲市です。

三日目は、住職のお父さんが小僧をしていた妙心寺派如法寺に立ち寄りしました。肱川の沈下橋を渡り、ヒノキ林の参道を登ってたどりつきましたが、あいにくと仏殿・本堂とも工事中で残念でした。

最後にお参りした十夜ヶ橋は、お大師さんが野宿をしたという場所で、私たちも頭上を自動車が行き交う橋の下で般若心経を詠んでお参りをしました。

住職のお父さんが小僧をしていたお寺といい、お大師さんが野宿した橋の下といい、寝食が感じられ、厳しい修行とか超人的な伝説と異なっており、とても身近な印象を受けました。

【下】橋の欄干にも、寝ている姿のお大師さんがデザインされている。



国境の島「対馬」への旅

——6月の土曜会



六月の土曜会は、「対馬」への二泊三日の旅でした。

八月から圓福寺に入寺する竜波禅士の生家「西山寺」とのご縁で出かけた今回の旅は、西山寺のお参りと、国境の島対馬観光。そして、三日目は、博多にある「聖福寺」の参拝と盛りだくさんで、記憶に残る旅となりました。

日本地図を逆さにして見ると、朝鮮半島と日本列島の間に対馬が位置し、対馬が大陸との交流の要所だったことがわかりますが、そんな遺跡や史跡が多く、歴史と自然の豊かな島でした。



【上】対馬島内の「浅芽湾」の景色です。リアス式の入り組んだ入り江と、湾内に浮かぶたくさんの小島が松島を思わせませんが、周囲を山々が囲む独特の景色でした。

【中】アジサイ越しの西山寺山門です。本堂前の庭から、厳原（いずはら）の港を見下ろすことができます。この港は釜山との定期便がある国際港です。

【左】西山寺山門の前で記念撮影。竜波禅士のご両親、可愛い甥子さんも一緒に映っています。参加二十一名、西山寺宿坊に二泊させていただきました。大変お世話になりました。



聖福寺本堂



三世仏の箔押し



三日目にお参りした博多の聖福寺は、「扶桑最初禅窟」と言われ、臨済宗開祖栄西禅師が開かれた日本初の臨済宗のお寺です。「扶桑」は、中国から見て東にある国という意味で、日本を意味しています。

圓福寺住職の平林寺修行中の大先輩である、芙蓉庵老大師が住職を務められているご縁で、お参りさせていただきました。嚴重に施錠されている宝物庫の中まで、老大師自らご案内して下さり、貴重な宝物の数々を拝見させていただきました。

栄西禅師像を安置する開山堂のお参りの後、ちょうど仏殿では、丈六三世仏の金箔押し作業が進められていましたが、その現場までご案内いただき、またまた驚かされました。

最後に、山門の前で老大師と共に記念撮影させていただきました（上の写真）、老大師直筆の色紙（表紙に掲載）とともに、大切なお土産となりました。



第34回花園会ゴルフ大会

5月25日 於：CPGカントリークラブ

第三十四回大会は、女性五名・初参加三名を含む二十一名で開催されました。今大会も、賞品を返上して、その分もチャリティにさせていただきました。成績は表の通りです。午前中のハーフ四十四の住職の健闘が光りましたが、新ペリアのハンデいに恵まれず、上位にはなれませんでした。

参加者の罰金も併せて、二万八千八百円を本山のおかげさま献金に寄付させていただきます。また、次回（十月二十六日）を予定。

順位		グロス	ハンデ	ネット
優勝	矢野 弘明	92	20.4	71.6
準優勝	小山 稔	89	16.8	72.2
3位	柴田 勝美	76	3.6	72.4
4位	石田 和夫	97	22.8	74.2
5位	常世田 政信	88	13.2	74.8

平成十八年五月発行の圓福寺報第四十六号から、四回にわたって連載された「寺から半里」の続編を次号より連載する予定です。執筆は、前回と同じく、熊倉浩さんです。

タイトルは、「続・寺から半里」(わが町かど探索)で、主に京葉道路から内陸側を取り上げてくださいます。少しだけ、見出しをご紹介します。

- 十六号線に沿って・雉撃ちのこと
- 旧陸軍下志津演習場
- 妙見信仰と千葉
- 園生の森からの長沼・横橋へ
- 奥の院馬頭観世音
- 駒形観音堂と駒形大仏
- 御成街道

などとなっております。

千葉の変貌ぶりや、路傍の石仏のいわれや千葉にも大仏があるという発見など、どうぞお楽しみに！

「続・寺から半里」

～わが町かど探索～

連載予定

平成23年度花園会会計報告

平成23年4月1日～平成24年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	10,091	
	お寺より活動費	1,485,000	
	行事収入	1,883,360	年越し参り、地蔵盆・禅童会・土曜会・新年会・写経会・ご詠歌などの参加費を含む
	雑収入	84	預金決算利息
	歳入合計	¥3,378,535	
歳出	宗派賦課金	167,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	1,907,661	年越し参り・地蔵盆・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌・第61回ご詠歌全国本山大会研修等の諸経費と会員への補助
	事務費	560,740	事務経費、行事案内状の印刷費、郵送料など
	会議費	188,424	月例役員会
	研修費	345,737	役員研修、東京教区部内研修会
	慶弔費	0	
	寄付金	109,200	玄関口及びトイレの手摺りをお寺に寄贈
	雑費	0	
	歳出合計	¥3,279,262	
	剰余金	¥99,273	剰余金 ¥99,273は次年度繰越金としました。

【投稿】

「末期の露」

こてはし台 荒井 恒夫さん

一月初めの
ある朝、居間
の南に面した
レースのカー
テンにバツタ
が止まってい
るの見つけ



た。体長六センチほど、薄茶色
で翅に斑点がある。へえー、こ
んな所に今頃、と思い、絨毯の
上に置いたがじっとしている。
何か食べ物をと、みかんの食べ
残しをそばに置いた。あとで見
ると、容器に乗りあがりみかん
に口をつけていた。食べてい
る！

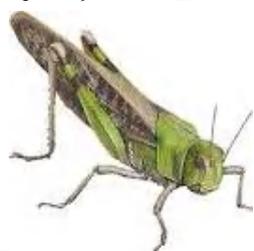
その後は気がつくともそばにあ
る観葉植物の葉を伝ったり、
カーテンのあちこちを移動して
いたが、そのうち縫い襷に入り

動かなくなつた。数日たつた。
死んでしまったのかと思ってい
たが、春の陽気が三日続いたこ
とがあつてまた動きだした。生
きている！

そのころは朝になるとバツタ
の居場所を確かめるのが日課と
なつた。カーテンレールの裏側
などについてすぐには分からず、
見つけると何かほつとしたもの
だ。これは妻も同じで、バツタ
はペットのような存在となつ
た。

もう七年前になるが、「ジャ
ンガリー」というモルモットに
にてそれよりずっと小振りな小
動物を飼っていた。普段は箱の
中だが、出してやると畳の上を
走り回り、手の平にも乗ってき
て癒されたものだ。

それ以来、バツタ
は予期せぬ珍客、図
書館で調べたところ、「トノサマバツ
タ」のようである。



「越冬するの
かしら？」妻
が言った。

二ヶ月ほど
経つた三月の
ある朝、いつ
もは上にいる

バツタがカーテンの舌で敷居を
頭に乗せていて、そこに溜まっ
ている露を飲んでいるように見
えた。しかし半日経つても動か
ない。触れたみたが反応がな
かつた。死んでしまつたの
だ・・・。末期の露を自分で口
に含んだのだらうか。そんな風
に見えた。

しばらくの間であつたが妻と
二人で楽しめた。死骸を庭の隅
に埋め、小さな石ころを置い
た。その横にはジャンガリーが
眠っている。庭の草取りの時、
その周りは特に丁寧をやってい
る。

寺報への投稿、大歓迎です。文章に限
らず、写真やイラストもお寄せくださ
い。お待ちしております。



平成二十四年上半年期
お寺と和尚の記録抄

1月	1日	新春ご祈祷
	1日～3日	修正会
	15日	花園会新年会
2月	5日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
	10日～12日	写経会
	18日	幼稚園、職員研修旅行
	20日	土曜会「仏教シアター」
	24日～26日	幼稚園、年長組「お茶会」
3月	4日	四国あるき遍路の旅（二巡目の第九回）
	11日	写経会
	17日	春彼岸法要
	22日	幼稚園、卒園式
	23日	根岸円光寺春彼岸会、法話
		土曜会「彼岸法話会」
		布教師 池上 寛道師
		取手長禅寺彼岸法要

4月	1日	写経会
5月	9日	幼稚園、入園式
	8日	写経会
6月	19日	土曜会「市原ボランテラ」
	3日	写経会
	7日	幼稚園、決算監査
	15日～17日	土曜会「国境の島『対馬』への旅」
	21日～22日	宮城金蔵寺、先任職津送（本葬）
	25日	スマートフォンコミュニティ、「写経会」
7月	1日	写経会
	1日	丸山町慈雲寺任職通夜
	2日	丸山町慈雲寺任職津送（本葬）
	7日	初盆・新入檀信徒施餓鬼会
	8日	山門施餓鬼会

【スマホにご用心！】
例年に比べ、記録が少ないのに気づいた方もいらっしゃると思います。私のスケジュール管理を、手書きの手帳からスマートフォンに移行しており、さあ記録抄に記入しようと思ったら、五月以前の記録が全部消えているではありませんか。原因不明。おそらくどこかのボタンを間違っって押してしまったのでしょうか。どこにも記録がなく、その間何をしてきたのかさっぱりわかりません。まるで、記憶喪失か、はたまた「まだらボケ」とはこんなものかと思ってしまうました。あわててスマホのマニュアルを注文しました。ご用心・ご用心。

あたたかな活動

(2月の「園だより」から)

例年以上に寒さが身にしみる冬のような気がします。でも、年長さんの「みらいにとどけ」が、お米とともに被災地の人に喜びをもたらし、読んでくれたたくさんの方の感動を呼んで、教職員のこころはほんわか温かくなっています。

年長さんのかまどでのご飯炊き以来、火の大切さを痛感し、年中・年少さんの「冬たんけん」では、「たき火」を体験させることになりました。大きなたき火にはどの子も興味津津だったようです。北風が吹く中で、たき火の温かさを味わい、たき火で焼いたおにぎりのお昼ごはんは火のありがたさを実感しました。

それに先立ち、1月のQ園隊では、お父さん・お母さんに「薪割り」をお手伝いいただき

ました。寒い中でしたが、汗をかいて温かくなったことと思います。それを見た子どもたちは、お父さんやお母さんのたくましさを見るとともに、木が薪になる様子を間近で見ました。



順序は逆になりましたが、年中さんの「冬たんけん」で雑木林の大木を切り倒す様子を見せる事が出来ました。チェンソーで切り込みを入れ始めると、「あーっ園長先生だ」「なにしてるの?」、中には「やめてーっ」という子もいました。ミシミシッ、ドッスーンの大音響とともに木が倒れると、あっけにとられて一瞬の静寂。先生の「登ってみようか」のことは、一斉に倒れた木に群がって、まるでキコリの小人たちのようにでした。

この切り倒された大木が、薪になり、ご飯を炊いたり、自分たちを温めてくれる燃料になっ

たりすることを知ってもらいたくて、幼稚園の玄関ホールに、「薪ストーブ」を設置しました。25日に「点火式」をしましたばかりです。ほんのちよっと玄関ホールが温かくなりました。

スイッチを入れれば温かくなるエアコンやファンヒーターは、その燃料を外国からの輸入に頼り、特に福島原発以後は火力発電に頼っているのですから、電気の原油への依存度は以前より増していると思います。ところが、国土の約7割を森林が占める日本ですから、山の木を使えば薪という燃料を手に入れる事ができるのです。そしてささやかながら、節電にもなればと思います。

雑木の伐採・薪割り・ご飯炊き・

たき火・薪ストーブと、つながりのあるあたたかな活動になりました。





子どもたちのお盆

地蔵盆のご案内



8月25日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地蔵盆終了



ご供養のご案内

地蔵盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を送って下さるか、お電話にてお申込下さい。

***供養料**

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

* 供養料は当日の受け付けです。

山岡鉄舟母堂のお地蔵さんにちなんで毎年開催されている「地蔵盆」も今年で第二十回。

参道の両側に「禅重会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ境内のわらべ地蔵たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養・ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

織 暑 御 恩 舞

お品書き

手作りの焼きそば、
 炭火やきとり、山
 形産玉こんにゃ
 ク、昔なつかしの
 駄菓子、市原産米
 のポン菓子の実演
 販売、冷たい生
 ビールジュース、
 こころしずかに野
 点の一眼、その他